

犬や猫のワクチン接種について関心を持っておられる方は多いことと思います。ワクチン接種に関する質問は、私共がふだん最も多く受ける質問の一つといって良いでしょう。そこで、ワクチンについて、皆さんに知っておいていただきたいことをまとめてみたいと思います。

現在おこなわれているワクチン接種は犬で「狂犬病ワクチン」と「混合ワクチン」、猫で「混合ワクチン」と「猫白血病ウイルス感染症ワクチン」の各々2種類です。

それぞれのワクチンで予防できる病気は下の表のとおりです。これらの病気は伝染力が強くかかるととてもつらい症状で治療の難しい恐ろしい病気です。狂犬病以外は日常かなりあちこちで発生しています。ワクチン接種はこれらの病気にかかる前に体の中に抗体を作り免疫をつけて発症しないよう、万一発症しても軽い症状で済むようにするのが目的で、私たちの強い味方なのです。

犬：混合ワクチン

猫：混合ワクチン

ジステンパー

猫汎白血球減少症

アデノウイルス1型(犬伝染性肝炎)

猫カリシウイルス感染症

アデノウイルス2型

猫ウイルス性鼻気管炎

犬パラインフルエンザワクチン

猫白血病ウイルス感染

パルボウイルス感染症

レプトスピラ症

狂犬病ワクチン

ワクチン接種は、生後4ヶ月までの初回接種とその後の追加接種によって免疫を維持していくことが大切です。そのためにはいつワクチンを打つかが重要になります。

生まれてすぐの仔犬や仔猫は最初に飲む母乳を介して、母親の持つ免疫を譲り受けます。この母譲りの免疫を、移行抗体と言いますが、仔犬や仔猫が生まれてから離乳し親離れする頃までの一時期、子供達をいろいろな病原菌から守っています。移行抗体が残っている間はワクチンを打ってもはねかえされてしまい、ワクチン接種は無駄になります。また移行抗体の切れる時期は、母親の持っている免疫の強さや病気の種類、子供の状況によって、生後数週間から数ヶ月とまちまちです。

そこで、仔犬や仔猫のワクチン接種は、母譲りの免疫(移行抗体)がなくなるときにタイミングよく行なえると良いのですが、実際には難しいといえます。当院では一般的なガイドラインと

して、犬の混合ワクチンの場合1回目7週令～9週令(約2ヶ月)、2回目3ヶ月令位、3回目4ヶ月すぎの3回接種を行っています。ポイントは移行抗体が完全になくなる4ヶ月以降に最終ワクチンを接種するという点です。この最終ワクチンが済むまでは病気の犬や猫と接触がないよう、気をつけましょう。

1回目、2回目のワクチンをしていたのに3回目を打つ直前にパルボウイルス感染症にかかってしまったという苦い経験があります。くれぐれも注意してください。

*最近では、移行抗体のある状態でも、ワクチン効果が得られるような新しいワクチンの開発が進み、低年齢での予防が可能になってきました。ワクチンの種類によって接種時期が少しずつ異なりますので、獣医師にご相談ください。

さて、無事に最初の3回のワクチン接種が済みましたら、それからは免疫を維持するために、毎年1回、追加接種をする必要があります。秋から冬の初めにかけては犬や猫の体調が良い事が多く、免疫の補強をするのに最適な時期といえます。高齢の犬や猫は、若い頃に比べ免疫がつきにくい事がありますので、年1回の追加接種は特に重要になります。また手術後や出産後の体力の落ちたときには病気にかかりやすくなりますので、ワクチン接種はきちんとしておきましょう。

*近年、海外での免疫持続期間の研究から、追加接種の間隔について様々な意見がありますが、日本でのワクチン接種率の現状では、1年ごとの追加接種で十分な免疫を維持させておくことが大切と考えます。

その他、ワクチン接種前には、獣医師が健康チェックを行いますので日頃から気になっている事があれば、なんでもご相談ください。栄養状態や寄生虫の有無なども免疫を得る上で影響しますので、検便、駆虫、食事改善なども大切です。下痢をしていたり、発熱があったりした場合は、まずその治療が必要です。

家族の一員である犬や猫を病気から守るためには、有効なワクチン接種をぜひおすすめします。

※海外からの狂犬病侵入の可能性が心配されています。

法令で定められた狂犬病予防注射を

生後3ヶ月から年1回受けてください。

※猫白血病ウイルス感染症は接種前に抗体検査を行いましょう。

US Post Office supports Spay/Neuter Campaigns

米国郵便局が動物の去勢・避妊推進運動に貢献



2002年9月に発行される米国の記念切手として、「去勢・避妊」を奨励する人道的メッセージと、飼い主がなく、シェルターに収容されていた2匹の動物(子犬と子猫)の写真を題材にするもの1

億2500万枚が、全国で1年間販売される予定。

これは、5年以上もの間活動を続け、郵政当局を説得して切手発行を実現させるに至ったホープ・タール氏(PaLC—繁殖を防ぐ運動をすすめる連合組織—の事業部長)の功績に負うところが大きく、去勢・避妊こそが過剰ペットを解消するために重要な役割を果たすことを広く国民にアピールしようというものです。

米国の先例に習って、日本、及び他の国々でも同様の動きが望まれます。

This September 2002, 125 million U.S. commemorative stamps bearing the humane message "Neuter/Spay" and the photos of two former homeless shelter animals, a puppy and a kitten, will go on sale throughout the United States for a full year.

It is a remarkable achievement by Hope Tarr, Project Director of PaLC (Prevent a Litter Coalition) who for over five years campaigned to persuade US Postal Authorities to issue stamps which bring the importance of spay-neuter and its effect on reducing pet over-population into national focus.

We hope that other countries, including Japan, will follow the USA's lead.

